

造血幹細胞移植治療を受けた患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開し患者さんが拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関して、研究計画や関係する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 慢性骨髄性白血病(CML)の同種移植の移植成績と移植後 TKI 投与についての解析

(TKI：チロシンキナーゼ阻害剤)

[研究機関] 北海道大学病院（病院長 寶金 清博）

[研究責任者] 近藤 健 （血液内科・講師）

[研究の目的]

慢性骨髄性白血病は、2001年にイマチニブという薬剤が登場して、内服で病状をコントロール出来るようになりました。更に2009年にはダサチニブ、ニロチニブが登場し、イマチニブ以上に良好な効果が得られるようになっていきます。しかし、一部の患者さんはこれらの薬剤でも治療効果が不十分な場合があり、現在でも造血幹細胞移植が行われています。本研究は、現状の慢性骨髄性白血病治療の中で、どのような因子が造血幹細胞移植の治療成績に影響するかを検討し、今後の移植医療の成績向上を目指すものです。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2001年以降に慢性骨髄性白血病と診断され、造血幹細胞移植治療を受けた方

●利用するカルテ情報

診断名、年齢、性別、検査結果（血液検査、骨髄検査）、イマチニブ／ダサチニブ／ニロチニブの治療歴）を利用しますが、これらの情報は、患者様が造血幹細胞移植を受けられる際に同意いただいた「造血細胞医療の全国調査研究」において登録したデータを用います。

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院血液内科 担当医師 近藤 健

電話 011-706-7214 FAX 011-706-7823